

第4回 北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議 議事概要

1. 日時 令和5年3月9日(木) 15:00~17:00

2. 議事

(1) 各ルート協議会R4年度の取組、R5年度の予定

- 1) きた北海道ルート
- 2) 石狩川流域圏ルート
- 3) 阿寒・摩周・釧路湿原ルート
- 4) トカプチ400
- 5) 富良野美瑛サイクリングルート
- 6) オホーツクサイクリングルート
- 7) 石狩北部・増毛サイクルルート
- 8) 羊蹄ニセコエリアサイクルルート

(2) ルート協議会の新規応募

- 1) オロロンルート・サイクルルート

(3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告

- 1) 各機関の取組について

(4) アドバイザー会議委員からの助言等

3. 議事概要

(1) 各ルート協議会R4年度の取組、R5年度の予定・・・資料1

1) きた北海道ルート

- ・宗谷と上川の2エリアで連携し、セルフガイドで楽しめるルートづくりを目指している。豊かな自然をいかに五感で楽しんで頂けるか、二次交通をどうしていくかが課題。スイスモビリティを道北で展開できないかと取り組んでいるところ。
- ・スイスモビリティは、自転車をベースにトレッキング、カヌー、マウンテンバイクなど、環境負荷が少ない交通手段で移動する、さらに公共交通を組み合わせることで広範囲に移動できるようにするもの。
- ・現在の取組としては、宗谷バスに協力頂いてサイクルバスを導入し、旅行会社を含めて活用。
- ・道路パトロールカーを活用し、サイクリストの応援カーを導入。
- ・旭川と宗谷岬間を、スピードではなくフルサポートで楽しむ「てっぺんライド」をこれまで5回開催。昨年は襟裳岬から旭川間の「とんがりロードライド」と合わせて開催(計715km)し、3名が走破。

- ・令和5年度は、引き続き、各観光協会やDMOと連携して情報発信を行う。
- ・てっぺんライドについては、ステージを区切りながらの展開を検討している。
- ・レンタサイクルが増えているので、相互乗り捨ての仕組みを考えているところだが、距離があるので、自転車をどう回収するかが課題。

2) 石狩川流域圏ルート

- ・北海道らしい景色を眺めながら石狩川の流れに沿って楽しむロングライドを進めたい。
- ・新千歳空港、旭川空港、JR旭川駅をゲートウェイとしており、道外やインバウンドの利用を期待。
- ・情報発信ツールとしてマップや沿線の見どころガイドを制作。
- ・令和4年度はルートの走行会を通じて走行環境や受入環境の現地確認を行った。参加者アンケート結果では、トイレの不足、路面の枝葉処理の課題が挙げられた。
- ・課題については、案内看板や路面表示が3%と遅れている。
- ・国、北海道の御協力のもと整備推進させていきたい。また、各自治体に整備の必要性について共通認識を持ってもらうこと、財源確保が課題。
- ・ホームページによるルートPR、管理運営方針の検討を進めたい。

3) 阿寒・摩周・釧路湿原ルート

- ・阿寒・摩周・釧路湿原ルートから鶴居村に入る地域ルートの構想を進めている。
- ・川湯の電動アシスト車によるレンタサイクル事業、JR釧網本線維持活性化実行委員主催の釧網線を活用した釧路～摩周間のサイクリントレイン実証実験に参加。
- ・ターゲットは、本格的サイクリストから手軽なサイクリング客までを想定。山あり谷ありの地形のため、電動アシスト車を活用していきたい。
- ・寄り道観光、泊まって食べて温泉に入る旅を、自転車を介して進めることが目標。
- ・現在、8市町村の観光に繋がるようなポータルサイトを制作中。
- ・課題は、予算の問題、地域連携の問題。
- ・レンタサイクル事業を拡大させ、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイとも連携しながら道路を活用していきたい。

4) トカプチ400

- ・ゲートウェイが帯広駅バスターミナルととかち帯広空港だったが、新たに道東自動車道に隣接した道の駅おとふけを3番目のゲートウェイとする予定。
- ・民間の動きがある程度出てきており、完走証の発行を考えている。

- ・地域ルートとして4ルート登録。今年度もう1ルートが登録予定。
- ・足下をもう一度見直したい。トカプチ400を地域でもっと自転車に乗るシステムをつくりたい。
- ・手ぶらレンタサイクル、レンタサイクルに限りバスに乗せて移動できる仕組みを検討しているところ。
- ・ルート協議会として進めているのは走行環境、受入環境、PR。お土産品としてオリジナルグッズの販売検討を行っている。
- ・NCRに指定されたが、最終的には北海道全体に波及させていきたい。

5) 富良野美瑛サイクリングルート

- ・令和4年度はコロナ禍で見送っていたイベントを開催。その他、美瑛町でファットバイクを使ったイベント、占冠村でサイクリング以外のアドベンチャーとの連携、上富良野町でのeバイクツアーを実施。
- ・ルートPRは、サイクルモードでプロモーションを行ってきた。
- ・地元のサイクリストとの関係が希薄だったので交流を深めていきたい。春にサイクリング会を企画し、サイクリスト目線でのルートになるように取り組みたい。
- ・富良野麓郷エリアのバス利用者はレンタサイクル利用料が割引になるサービスを考えている。
- ・富良野美瑛で自転車活用推進計画を策定したが、広域のため連携した取組ができていない。NCRを目指す上で何に取組むべきかを教えて欲しい。

6) オホーツクサイクリングルート

- ・ルートの魅力は雄大な風景。国立公園はないが、網走国定公園、濤沸湖、能取湖、網走湖などがある。
- ・地域ルートは3年前からナビタイムで誘導しながら走行できる環境がある。
- ・夏だけではなく冬のコンテンツも展開し、通年で楽しめるようにしたい。
- ・北見市、網走市、小清水町、大空町、美幌町が連携したイベントを開催。
- ・観光客やファミリー層をターゲットにサイクルトレーラーで走れる「ハッカミントエクスプレス」(東武トップツアーズ、北見バスと連携)を展開。
- ・弱虫ペダルチーム、キナンチームなどプロチームの合宿誘致にも取り組んだ。
- ・令和5年度に「オホサイ2023」というイベント(1泊2日で周遊するライドイベント)を開催予定。
- ・道路パトロールカーによるサイクリスト応援カーの取組を運用開始。
- ・課題は2市3町でのレンタサイクルにて、どこを走行しているかが不明なので、レンタサイクルにGPSを付けて調査する予定。

7) 石狩北部・増毛サイクルルート

- ・看板設置などの走行環境整備を進め、10月には現地視察を行った。
- ・ソーシャル×散走企画コンテストに藤女子大が参加し、石狩市を舞台としたモデルツアーが企画された。
- ・ルートを4ステージに分け、サイクリングマップに反映していきたい。
- ・課題は、サイクリストの数が分からず整備効果が不明。
- ・自転車を持っていない潜在的サイクリストの掘り起こし、道の駅で世界のルートや本ルートをオンラインで走行できるような仕掛けを考えていきたい。

8) 羊蹄ニセコエリアサイクルルート

- ・コロナ禍で開催中止が続いていたニセコクラシック、HANAZONO ヒルクライムが開催できた。ニセコグラベルが春と秋に開催され、ようやく通常に戻った感じである。
- ・蘭越町ルートについて、道路管理者、Y N C A関係者で自転車走行しながら検討を進め、看板設置が完了。
- ・洞爺湖、仁木、余市にも取り組みが広がっており、羊蹄ニセコを起点として各ルートに足を伸ばす流れができた。
- ・シェアザロードのポスターを作成し、道の駅に掲載してもらっている。
- ・J C T A認定ガイドがエリアに20名おり、認定ガイドがサイクリングツアーを行うところもあり、産業としての定着が少しずつ見えてきている。
- ・令和5年度は、サイクリングマップのリニューアル、シェアザロードの取組継続。さらに、今年4月からヘルメット着用の義務化を踏まえ情報発信を進めたい。

(2) ルート協議会の新規応募・・・資料2

1) オロロンルート・サイクルルート

- ・シーニックバイウェイ萌える天北オロロンルート運営代表者会議、留萌アウトドア観光ネットワーク会議、留萌市を始めとする8市町村、留萌開建、留萌振興局と連携し、今回新規応募した。アウトドア観光を総合的に創出していきたい。
- ・きた北海道ルートや石狩北部・増毛サイクルルートとの接続を目指したい。
- ・まずは看板を設置して検討し、走行環境を向上させていく。
- ・今後、アウトドア事業者との連携、自転車ロゲイニングの取組などを実施予定。

(3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告・・・資料3

1) 各機関の取組について

①商工会議所連合会

- ・昨年7月に第18回サイクルツーリズム北海道連絡会の会議を実施。リアル開催で40名開催。爲廣会長にトカプチ400の取組を紹介して頂いた。会議は来年度も開催していく。
- ・サイクルモード大阪に参加してPR。2日間で約1万人来場し、1000部配布した。今年度は今月中に冊子を発行し、トカプチ400を新たに入れる。
- ・台湾南部屏東（へいとう）でのサイクリングイベント、台北でのPRを行い、繁体字マップを配布。

②SBW支援センター

- ・釧網線サイクルトレインのモニター調査に参加、道南いさりび鉄道を使ったサイクルトレインと函館バスのサイクルバスの実証に協力。
- ・道央圏における電動アシストを含むレンタサイクルを実施し、北広島市、豊頃町、鶴居村のレンタサイクルにも協力。
- ・札幌駅北口にあるゲストハウス「Ten to Ten」と連携したサイクルステーションの再構築。
- ・オロロンルートにて、留萌管内でスポーツバイクのメンテナンス講習会を実施。
- ・ATWSに向けて札幌市、道南でのPSA、DOAの事前確認を実施。
- ・北海道サイクリング協会と連携したとんがりロードライド2022を開催。てっぺんライドと繋ぐと北海道縦断ライドとなる。
- ・シマノ主催の散走企画コンテストの、参加者募集及び実現に向けたサポート。
- ・WEBサイト（サイクルート北海道）の更新。

③北海道（総合政策部）

- ・釧網線サイクルトレインモニターツアーに参加。
- ・公共駐輪場の冬期間における自転車保管場所のPR（Instagram）。
- ・サイクルラック等の整備費用をクラウドファンディングで125万円が集まり、今後整備を行っていく予定。
- ・自転車活用等推進事業のイベントを全14振興局管内で開催。
- ・情報発信について、「もっと、自転車北海道。」公式アカウントがInstagramしかなかったが、FacebookとTwitterを加えた3本柱による発信を行っていく。

④北海道（建設部）

- ・トカプチ400の路面表示設置、オホーツクサイクリングルートでピクトグラム、石狩北部・増毛サイクルルートで案内看板と路面表示設置、羊蹄ニセコエリアサイクルルートで路面表示設置、石狩川流域圏ルートのうち恵庭ルートで検討中。

- ・北海道第2期自転車利活用推進計画の位置付けにより、走行環境整備が予算配分される予定であり、進めていきたい。

⑤北海道（経済部・北海道観光振興機構）

- ・ATWSイベントが今年の9月に開催予定。本番サイクリングコースのテストツアーを開催（ニセコ、ルスツ、美唄、北広島など）。
- ・北海道や観光振興機構では各地域でのモニターツアーやイベント実施を支援する事業を実施。

⑥北海道運輸局

- ・観光庁の補助金事業を活用したサイクリング関連事業を紹介。
- ・北見エリアで、サイクルトレーラーで人と自転車を同時に搬送し、複数のポイントでサイクリングをしてみわるツアーを造成。
- ・室蘭で観光バスの走れない坂道を巡る自転車ツアー造成。
- ・七飯・大沼でアドベンチャートラベルサイクリングコンテンツ造成事業を実施。
- ・令和5年度は観光庁の補助金事業を活用し、継続実施予定。

⑦北海道開発局

- ・案内サイン・路面表示矢羽根の標準仕様の改訂。
- ・令和3年度に連携協定を結んだセコマグループと連携し、セイコーマート151店舗にサイクルラックを設置。
- ・除雪ステーションや道の駅をサイクリスト休憩施設として活用。
- ・道路パトロールカーによるサイクリスト応援カーの取組。
- ・CCTVカメラやエコカウンター導入によるサイクリング客数の調査。
- ・サイクルルートマップの統一作成マニュアル改訂。
- ・自転車利用環境向上会議における情報発信。
- ・昨年10月、石狩北部・増毛サイクルルートの現地視察・意見交換会を実施。
- ・各基幹ルートが接続するルートサインのあり方を検討中。

（4）アドバイザー会議委員からの助言等

●矢ヶ崎委員

- ・サイクルツーリズムの取り組みが道内で活発化しており、心強い。
- ・北海道がサイクルツーリズムのメッカになれば世界的にもインパクトがある。
- ・サイクリストには、ベテランの方、昔走っていて復活したい人、初心者など、様々な方がおり、北海道では多様な方々を受け入れられる可能性がある。
- ・山登り等のアクティビティとサイクリングを合わせることで、ツーリズムの間口

が広がり、経済が回っていったらよい循環になっていくと思う。

●加藤委員

- ・オホーツク、石狩北部でレンタサイクルの利用が増えGPSで利用実態を把握したいとあったが、各コンビニや個人ショップなどの立寄り先にQRコードを置いて読み取ってもらい、レンタサイクル返却時にペットボトル1本プレゼントの企画等ではGPSが不要であり、利用経路等の情報収集が可能と思われる。
- ・サイクル関係者でルートを試走・体感すると何が必要なのかが分かるので、是非関係者でルートを走って欲しい。
- ・道路交通法改定によるヘルメット努力義務化に伴い、北海道の各自治体でヘルメット着用を推奨して欲しい。
- ・学生による散走コンテストの話があったが、学生だけではなく各自治体の職員においても自転車を体感し自分の地域を知ることが重要。4月の新職員と一緒に地域を自転車で周遊する取組なども考えて欲しい。茨城県土浦市ではその取組の効果が出ている。地域の方が自転車に乗ることから始めて欲しい。

●高橋委員

- ・オロロンラインが新ルートとなり感謝。ただし、ゲートウェイが気になった。道の駅がゲートウェイとのことだが、今後、整備方法等を検討してほしい。海岸線ルートとして、石狩北部・増毛サイクルルートと繋がるためルート間で連携し取り組んでほしい。
- ・スイスモビリティを参考に考えると、スイスは北海道の半分の4万平方メートルの中にサイクルルートが10ルートある。北海道では20ルートはあってもよい。ルートが長い場合、スイスではステージの考え方が採用され、公共交通や宿泊施設と連携してステージを考えている。
- ・今回、上級者のサイクリスト以外に初心者などもターゲットにしたところが重要。ルートが発展するためにも、潜在的サイクリストをどう発掘するかが重要で、広がりを持つ発掘を考えて欲しい。
- ・現在様々な支援が行われているが、北海道内全体としての支援策も検討必要。

●萩原委員

- ・石狩・増毛の視察に続き、オホーツクでは冬の取組としてとても参考になった。
- ・登山でYAMAPというアプリを使っている。登山コースに各登山者から、こういうところが危ないなどの情報等が投稿されており、YAMAPのユーザー同士がすれ違くと音が鳴り、情報交換も出来る。自転車でもYAMAPのような仕組みで、サイクリスト間で情報交換が出来るシステムがあればよい。

●宮内委員

- ・世界的なガイドブック「ロンリープラネット・ジャパン」に道内7つのドライブルートが載っていて、そのうちの2ルートが稚内～網走のオホーツクラインと網走～美幌峠～川湯温泉のR243であるので、オホーツクサイクリングルートはサイクリングルートとしてもポテンシャルがある。
- ・北海道のルートは平均距離が267kmで道外よりも長く、枝道が多いなど、どのように攻略すべきかが分かりにくい。それを分かりやすくする仕組みがステージ、区間という考え方であり、スイスモビリティやユーロペロなどの欧州では標準の考え方。
- ・267kmはツアーで周遊するとおおよそ4日間かかるため、最低4区間になる。ある区間は初心者でもOK、ある区間は上級者にしか向かないなどという難度設定に関わってくるので、距離が長いところは是非導入を考えて欲しい。
- ・NCRのしまなみ海道は、「しまなみ島走プラン」という攻略本がある。WAKAYAMA800は、各ルートの難易度が5段階で評価されている。参考にして欲しい。
- ・北海道のサイクルルートは距離が長いのが課題だが、セイコーマートとの連携、除雪ステーションの活用、道路パトロールカーの取組などは独自の取組で素晴らしい。
- ・その他に参考にして欲しいのは、トカプチ400でも行われている自販機によるスペアチューブ販売。太平洋岸自転車道の愛知県内ルート上にサイクルステーションがない場合、近くの道の駅を枝道往復で繋いでルートに組み込む事例がある。
- ・公共交通との連携については、サイクルバス、ハイヤー、トレーラーは実施しているが、鉄道がまだ試行段階。他の地域はすでに営業段階になっている。ぜひJR北海道との連携を強めて頂きたい。サイクルトレインができると緊急時の代替交通になり、ワンウェイサイクリングが可能になるとともに、輪行に不向きな電動アシスト自転車の輪行も可能となる。
- ・8つの基幹ルートは国が認めたサイクルツーリズムを推進するモデルルートに認定されており全国でもトップレベル。しかし、知名度はどうか。まだPRが足りない。サイクルモードなどの見本市を活用してほしい。また海外に向けて、台北サイクル、ドイツのユーロバイクなどの国際自転車見本市で発信するとインバウンド客向けにも良い発信となる。
- ・ATWSは道内モデルルートを海外向けにPRする絶好の機会。最低英語版のチラシや動画などPRツールを用意して来場者にPRしてほしい。

●屋井委員

- ・各ルートの取組が非常に進んでいるという印象を受けた。
- ・国の観光基本計画の骨子が固まっており、NCRの活用についても記載された。
- ・ルートが長距離だと区間ごとに難易度が違う。難易度に合わせて外国人などに利用して頂かないと安全だけではなく評判にも関わるので外国人向けに適切な情報発信を行っていくことが、裾野を広げるためにも重要。
- ・先日、オホーツクサイクリングルートで雄大な自然を体感させて頂いた。
- ・新規ルートのオロロンサイクルルートのトンネルの状況について知りたい。現地視察した石狩北部・増毛サイクルルートはトンネル区間が連続し、トンネルでの走行をどうしたら良いかという議論があった。他のルートとの組み合わせで140kmが構想されていると思うので、各ルートの個性が発揮できるようなネットワークを期待している。
- ・NCRという観点でいうと、レビューをすべきタイミングも近づいている。今後、レビュー項目を想定しておくべき。

オロロンライン・サイクルルート

- ・基幹ルート上のトンネルは留萌～小平間に1箇所。

※事務局

- ・初級、上級などの難度および冬を含む雄大な自然の体感など多様なサイクリストを受け入れる環境づくり、欧州では標準的なステージ（区間）設定の導入、複数の基幹ルートの連携によるネットワーク化に関する助言を頂いた。
- ・ヘルメット着用推奨、トンネル内安全対策、緊急時サービス展開などによる安心・安全な自転車利用環境の構築に関する助言を頂いた。
- ・道の駅をゲートウェイに位置づける際の整備方針、民間・行政との連携による休憩施設の配置やアクセス路整備、サイクリングと他のアクティビティの連携や公共交通連携によるツーリズムの間口を広げるなどの受入環境の充実に向けた検討、連携に関する助言を頂いた。
- ・ATWSや国内外の見本市を活用したルートの評価を含む多言語プロモーション、登山のYAMAPというアプリ等のサイクリング版ツール活用によるサイクリスト間の情報交換、立寄り先でのQRコード活用による利用経路の把握方法などによる情報発信、情報収集に関する助言を頂いた。
- ・ルート関係者など地域の方の自転車利用促進、NCRとなったトカプチ400のレビュー、オール北海道の支援策など、その他の取り組みに関する助言を頂いた。
- ・これらを踏まえ、今後、適宜、地域の皆さんと打合せをし、進めていきたい。